

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「イガの中の宝物」

秋も深まり、朝晩の風にひんやりとした冷気を混じる季節となりました。食欲の秋を彩る秋の味覚といえ様々なものがありますが、この時期ならではの楽しみといえば「栗拾い」です。

幼い頃、家族やご近所の子供たちと栗拾いに出かけた時のことを思い出します。足元に転がる大きなイガを、靴の底で挟むようにしてうまく開き、中からツヤツヤと光る茶色の栗の実を取り出す――トゲが刺さらないようにハラハラしながらも、ぷっくりと太った大きな栗を取り出した瞬間の喜びは格別なものでした。

一見すると硬くて痛そうな鋭いイガですが、実はあのトゲこそが、栗が熟すまで大切に守り抜くための「鎧(よろい)」です。雨風に耐え、害虫や鳥たちから実を守り続け、十分に熟したその時に初めて自らイガを開き、食べごろの実を私たちに届けてくれます。

私たち警備の仕事も、どこかこの「栗のイガ」に似ているところがあるのかもしれません。現場での安全確保や見張りは、一見すると地味で、時には厳しさや緊張感を伴うものです。しかし、その「守り」を担当する人がいて、工事現場・イベントが無事に成功するという「実り(宝物)」が生まれます。目立たずとも、地域社会の鎧となって安全を守り抜く存在でありたい――栗のイガを見つめながら、改めて自らの役割への誇りと責任を感じます。

秋の夜長、美味しい栗料理に舌鼓を打ちながら、明日への活力を養いたいものです。朝晩の寒暖差が大きい時期ですので、先生方もどうぞ体調には十分お気をつけて
実り多き豊かな秋をお過ごしください。



- 毎号、「マケタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。昨年度は14名の新入社員が仲間に加わりました。本年度は20名の採用予定しております。例年3月の最終週まで面接が行われ、内定・入社式に参加する就活生が多数おります。
- 引き続き、東葉警備保障株式会社をどうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎